



Press Release

令和6年10月25日
五智歴史の里会館

<https://www.gotisato.com/>
Tel. Fax. 025-543-3222

第119回文化講演会のご案内

入場無料

『中世女性史から恵信尼文書をみる』

- 開催日時 令和6年11月16日(土) 午後2時～3時30分
- 場 所 五智歴史の里会館（国府1丁目：居多神社向かい）

中世女性史は三分割して考える。一つは、「家」に包含される女。夫婦が子どもを育てる「家」という経営の単位が始まる。二つ目は尼となって、僧籍に入る女。三つめは遊女や巫女、白拍子など芸能に生きる女である。それぞれに階層がある。支えねばならない下女や奴婢たちもいた。恵信尼は何処に属するか。七十三歳もの高齢者になった恵信尼は、親鸞、善鸞、覚真を京都に遺し、越後下向。時代は、戦争と飢餓の繰り返し。恵信尼文書から、混乱と荒廃の現実に向きあい「家」を中心にした板倉地区での生活が見える。「家」には、財産、経営、地位、土地と家族とわが身に関わる人間の現実がある。惣領制につながる課題がある。しかし、「家」に閉じ込められていない恵信尼の姿が文書から見えてくる。自らを失わず、ひたすらにわが子、孫や奴婢を守る。それはまさに一人ひとりが自己実現を果たそうとすることより、相互に分かり合える社会が創成していく源の心と言ってよい。勁草のごとくしなやかに、困難にむかい、生きようとする強い意志があったればこそ、恵信尼は、長寿を全うしたのだろう。分断と個人化が深刻化する今日の視点で、越後板倉の地に生きた先人恵信尼のいきざまを再考してみることが求められるのではないか。



昭和三十四年のころの五輪塔
(恵信尼公碑)

■ 講師プロフィール 青山 増雄 氏 高田南城高等学校社会人講座講師

早稲田大学卒・奈良大学部文化財歴史学科中途退学
平成19年(2007)から、現在まで、県立高田南城高等学校社会人講座「古典と文化財」講師

■ 五智歴史の里協議会主催
■ 上越市後援

五智歴史の里協議会
会長 花ヶ前 盛明

電話/fax:025-543-3222
✉ gotisato@joetsu.ne.jp